

令和八年度

海外帰国生入学試験問題

国語

令和七年十二月九日実施

試験開始の合図があるまで問題用紙は開かず、左記の注意事項をよく読んでおきなさい。

- 一、問題は22ページまであります。足りないページや、印刷のよく見えないページがあったときは、手を上げて申し出てください。
- 二、解答用紙は別になっています。答えはすべてそこに記入してください。
- 三、解答に字数の指定がある場合は、句読点やかっこなどの記号も字数として数えます。
- 四、問題用紙には、受験番号・氏名を書く必要はありません。

一

次の文章を読んで、後の1〜14の問いに答えなさい（問題の都合上、本文を変えているところがあります）。

「あちい。マジでありえねえ蒸し暑さ。オレらがガキの頃はもうちよいましたただろ。地球はこのまま煮えて滅びるのか？」

「潤ちゃん、それ毎年言ってる。でも今年はもうサウナみたいな体育館での練習ないから。代わりに、クーラーの利いた涼しい塾で、みっちり勉強だ」

「それもそれで地獄だーっ！」

市川潤が吠えて、古屋碧斗が声を上げて笑う。二人の手には通学用の鞆と弁当袋だけで、部活の荷物はない。隣を歩く大夢も同様に、しきりに手で顔を扇いでいる。

「梅雨時期は最悪だ。全身に湿気がまとわりついているみたいで、一日中気持ち悪い」

風の少ない曇天の日は、気温も高い上に湿度も高い。そのせいで、空気は停滞し、足音すら弾まずに沈んで聞こえる。閑静な住宅街を走る車の走行音も、【A】雨音も、学校のチャイムの音も、あらゆる音が分厚い瓶底に阻まれたみたいにこもって聞こえる梅雨が、大夢は大の苦手だった。

大夢の【B】言い方に碧斗が苦笑して、【C】声で提案する。

「大夢もまだ時間があるなら、一緒にコンビニに寄ろう。塾の前にアイスを食べたい」

「賛成！」潤が身を乗り出す。大夢も頷いた。

「いいよ、まだ四時過ぎだし。五時までに帰ればいいから」

潤と碧斗は大夢の同級生で、同じバレー部の仲間だ。一六二センチと小柄の潤はリベロ、一七五センチの碧斗がセッターだ。三人一

列に並ぶと頭が階段みたいになる。二人は幼馴染みで、小学生の頃から八王子市のクラブチームでバレエをしていた。そのため、入部
当時からすでに高い技術力で目立っていた。

高校からバレエを始めた大夢に、あれこれと世話を焼いてくれたのがこの二人だ。初めての部活動が高校バレエだった大夢の最初の
仲間とも言える。予選止まりの弱小バレエ部と一緒に強くして、インターハイの舞台に立とう、と励まし合った。

(中略)

大夢は二人の会計が終わるのを待って、出口に爪先を向けた。

涼しい店内にまだいたい気持ちと、早くアイスを食べたい気持ちが、^① 合う。こういうとき、このコンビニにもイトインスペー
スがあればいいのに、と思う。

三人分の足音と自動ドアの開く音、「あざっしたー」という店員の「D」声と、ガサガサとアイスの袋を開ける音が、バラバラ
のテンポで重なる。

碧斗がクーリッシュの口を啜えて、潤がガリガリ君のソーダ味に歯を立てた。大夢もバニラ味のクリスピーサンドにかじりついた。
「うまいな。親の前だとなかなか食べないから」

大夢の何気なく放った言葉に、潤と碧斗が押し黙る。冷たいアイスの塊が喉の内側を伝い落ち、生温い風が肌をなでて去る。

この後、潤と碧斗はバスに乗って、高尾駅近くの学習塾に向かう。塾の最寄りのコンビニでアイスを買えば、涼しいイトインス
ペースで食べられる。だが、そうしないのは、大夢に対する彼らなりの配慮だった。^②

碧斗がさり気なく尋ねた。

「あのさ、大夢は進路、どうすんの……？ 今月、三者面談があるだろ」

この中で進路先の希望が決まっていけないのは、大夢だけだ。

大夢は迷ったように咀嚼を止め、溶けたアイスを飲み下してから答えた。

「就職も視野に入れてるけど、市内にある介護福祉の専門学校に行けたらと思ってる。駅近に資格取得率の高い専門学校があつてさ。今日返ってきた模試の結果だと、合格圏内ではある」

(中略)

「そっか。行きたいところがあるなら良かった。上手く親父さんと話せたらいいな」

碧斗が励ますように返した。その時、

「——音大は？」

潤の低くて固い声が割り込んだ。

大夢が隣に目をやると、潤のまっすぐな目とぶつかった。猫みたいな黒目がちの大きな瞳は、一瞬で吸い込まれそうな迫力があ
る。

「あれだけチェロが弾けるのに、音大に行かねえのはもったいねえよ。英語だって話せるんだから、留学だって楽勝だろ」

大夢にはその道しかないと思切っている言い方だった。以前から潤がそう思っていることに、大夢は薄々気づいていた。折に触れて感じ取っていたものを、大夢はようやく面と向かって言葉にされたのだった。

潤の向こうで、碧斗が息を詰めてクーリッシュを握り締める。この辺りに多い林業業者の制服を着た中年男性が、沈黙する三人を横目に窺いながら横切る。

男性が店内に吸い込まれ、入店の音楽が自動ドアによって途切れると、大夢は自嘲めいた声で返した。

「ないなあ。僕たちがインターハイに行くより現実味がない」

大夢は空になったアイスの袋を、後背のゴミ箱に捨てた。

部活を引退して、日に日に二人と感覚がずれていく。きつとこれから差は開く一方だろう。同じ歩幅で歩いていた子供の時間が終わり、大人になるために、各々の道を、各々の歩幅で歩き始める。

「そんなことねえよ！ 突き指しても、チェロと両立しながらバレエをやり切ったじゃねえか！ 次は鍛えたその身体で音楽をやるんだろう!？」

「潤ちゃん、ストップ！」

碧斗が慌てて潤の肘を掴んだ。

「大夢がびっくりしてるよ。それ、潤ちゃんの思い込みだから。そうなればいいなあ——っていう希望を、押し付けちゃだめだ。大夢には大夢の考えがあるから」

「でも、大夢には才能があるのに！ アオだつて気になるから進路のことを訊いたんだろ！」

「そうだけど、大夢の人生の責任を取れるわけじゃないのに、勝手な提案はできないよ。そもそも家庭の事情だつて違う」

碧斗の冷静な言い分に、潤が唇を真一文字に引き結ぶ。④ 性情的に反対の二人だ。普段も、感情的になりやすい潤を冷静沈着な碧斗が宥めるのが常だった。碧斗が年齢より大人びた物言いをするのは、潤による反動だろう。

でも、大夢自身のこと二人が言い合っている光景は、あまりなかった。半年前にバレエの練習方法で相談した時が最後だ。あの時も、自分なんかのために言い争わないでほしいと思いつつながら、顔を強張らせた。

潤が引き結んだ唇の隙間から洩らすように呟いた。

「だって、ほんとにもつたいねえじゃん。漫画や映画でいくら感動しても、一日のうちにそうすぐ何回も見ようとはならないじゃん。でも、音楽だけは気が狂ったみたい、何回も何回も聴いちまうんだぜ。それを、大夢は弾けるんだ。アオは、もっと大夢の演奏を聴きたいとは思わねえの？」

「それは、思うけど……」

碧斗の眉が X の字に下がる。潤と碧斗がそろって大夢に目を向けた。さぐるような目つきには、^⑤期待の色が隠し切れていない。「ご、ごめん……」

名前負けしている己の夢の小ささが、二人を不快にさせている。

大夢は図体のでかさに反して気が小さいので、感情を強く出されるとたちまちに怯む。試合中は自身も昂っているので平気でアタックできるが、こうしてコート外で不意打ちされると、咄嗟に打ち返せない。

大夢は肩に掛けていた通学鞆の紐をぎゅつと握り、胸元に引き寄せた。

「僕、先生のとこに行かなきゃ……。二人とも、塾、頑張って」

逃げるように身を翻した。潤が大夢の名を叫んだが、振り返らずに走った。部活を引退して以来の全力疾走。

数分後、都道の交差点で赤信号に引っかかった。いつもここで潤と碧斗とは別れる。

肩で息をしながら来た道を振り返ったが、二人の姿はなかった。大夢は強く握ったままの鞆の紐からゆっくり手を離れた。

潤も碧斗も、大夢がチェロを弾けるといっただけで、特別なものを見るような目を向ける。クラシックに馴染みがないと、^⑥さも特別なものと感じるからだろう。実際に、バレエをするよりハードルが高い。チェロともなると、ピアノやヴァイオリンより珍しい。だが、

大夢の場合、一概に習い事とは言えなかった。

聞き飽きた信号の音に歩調を合わせ、横断歩道を渡った。東に曲がって、緩い坂道に入る。一〇歩も歩かぬうちにコンクリートの道が明るくなった。

大夢は立ち止まり、空を見上げた。視線の先に、小さな雲の切れ間がある。曇天にぼっかり開いた穴に、白い光に縁取られた青空が覗いている。ちょうどバレーボールぐらいの大きさだ。瞬く間に、体育館の照明の眩しさを思い出した。

アタックするときの、あの光の中に吸い込まれるような感覚が、恋しい。まるで少年漫画の主人公のように、ヒーローになるために高く跳び、仲間を救う。

だが、大夢がバレー部のヒーローになる物語は、すでに終わっていた。

次の物語の内容は予想がついている。悪く言えば、^⑧名前負け。良く言えば、^⑨身の丈に合っている。大夢にはバレーを始める前から大切にしているものがあつた。ゆえに、己の選択に間違いはないはずだ。

首をもどして歩き出す。^⑩顔の横に掲げた左手の指先が、宙を叩く。足音が拍子を刻み、鼻歌がこぼれ始める。やがて、雨を孕んだ草の匂いが、大夢の鼻腔にしつとりふれた。

(愛野史香『天使と歌う』による)

問1 【A】〜【D】に当てはまる言葉として適当なものを、次の中から一つずつ選んで記号で答えなさい（同じ記号は二度使えない）。

- ア 明るい イ うんざりした ウ おどけた エ こまかな オ 間延びした

問2 —線①「合う」が「互いに対立して張り合う」という意味になるように、に当てはまる言葉を次の中から一つ選んで記号で答えなさい。

- ア わたり イ せめぎ ウ むかい エ もつれ

問3 —線②「大夢に対する彼らなりの配慮」とはどのようなことか。その説明として最も適当なものを、次の中から一つ選んで記号で答えなさい。

- ア 二人と違って学習塾に通っていない大夢に、さびしい思いをさせたくないということ。
イ 一人で帰宅させることで、大夢の心が深く傷ついてしまうのをさけたいということ。
ウ 大夢の家庭の事情をよく考えずに、自分たちにつきあわせるのは悪いということ。
エ 聞きたいことを隠しているのは、かえって大夢のためにならないということ。

問4 — 線③ 「大夢は自嘲めいた声で返した」とあるが、この時の「大夢」の気持ちとして最も適当なものを、次の中から一つ選んで記号で答えなさい。

- ア 音大に進学できる実力も何も無く不安である。
- イ 音大に進学できないのでやけになっている。
- ウ 音大に進学するのは無理だとあきらめている。
- エ 音大に進学するかどうか正直聞かれたくない。

問5 — 線④ 「潤が唇を真一文字に引き結ぶ」とあるが、この時の「潤」の様子として最も適当なものを、次の中から一つ選んで記号で答えなさい。

- ア 言いたいことはたくさんあるが、我慢しようとしている様子。
- イ 自分の思いをないがしろにする相手に、憤りを隠せない様子。
- ウ 思いのままをぶつけてしまった自分の行動を後悔している様子。
- エ 何に関しても思い通りにならないことを不満に思っている様子。

問6 Xに当てはまる漢数字を答えなさい。

問7 — 線⑤ 「期待の色が隠し切れていない」とあるが、どのような「期待」か。「く」という期待。」に続くように十二字以内で説明しなさい。

問8 — 線⑥ 「さも」という言葉が正しく使われている文を、次の中から一つ選んで記号で答えなさい。

- ア 偉人^{いじん}の行ったことをさも実行^{じやうぎん}してみた。 イ さもしい行いはひかえた方がよろしい。
- ウ 彼は壇上^{だんじやう}でさも得意^{ていぎ}げな顔をしていた。 エ 無駄^{むだ}に流れる時間がさも許^{ゆる}せなかった。

問9 — 線⑦ 「コンクリートの道が明るくなった」のはなぜか。その理由として最も適当なものを次の中から一つ選んで記号で答えなさい。

- ア 晴れ間が少しのぞいたから。 イ 将来への見通しがついたから。
- ウ 市街地から山道に入ったから。 エ 二人と別れて一人になったから。

問10 — 線⑧ 「名前負け」とあるが、ここではどのようなことを「名前負け」と言っているのか。その内容を二十五字以上三十五字以内で説明しなさい。

問11 — 線⑨ 「身の丈に合っている」の意味として最も適当なものを、次の中から一つ選んで記号で答えなさい。

- ア 自分にとって親しみやすい
- イ 自分にとって興味深い
- ウ 自分にとって都合がいい
- エ 自分にとってふさわしい

問12 — 線⑩ 「顔の横に掲げた左手の指先が、宙を叩く」について、次の問いに答えなさい。

(1) この時の「大夢」はどのような表情をしていると考えられるか。最も適当なものを、次の中から一つ選んで記号で答えなさい。

- ア 大きなことを成しとげた得意げな表情。
- イ 思った以上に事態が進んで驚いている表情。
- ウ 自分なりの結論を得て満足している表情。
- エ 将来自分が成功することを信じて疑わない表情。

(2) この時の「大夢」は何をしているのか。それを説明した次の文の【 】に当てはまる表現を、十字以内で答えなさい。

・歩きながら、【 】をしていく。

問13 この文章から読み取れる(1)「潤」と(2)「碧斗」の人物像として最も適当なものを、次の中から一つずつ選んで記号で答えなさい。

- ア 他人の手前をうまく取り繕うのが上手な社交性がある人。
- イ 友のためならどんなに辛いことでもやり遂げる情熱的な人。
- ウ 自分の考えを、ありのままに語ることをいとわない正直な人。
- エ 周囲の雰囲気を見無視して、物事をはっきりさせる正義感の強い人。
- オ 相手の置かれている状況に配慮し、本音を口にするのをためらう人。

問14 この文章の表現上の特徴として最も適当なものを、次の中から一つ選んで記号で答えなさい。

- ア たとえや色彩を巧みに用いることで、登場人物の心理やこれからの運命をより象徴的に表現している。
- イ 長文と短文を組み合わせ、登場人物の行動の因果関係を一つ一つ具体例をあげて論理的に描いている。
- ウ 倒置法や反復法を用いて、刻々と変化していく登場人物の置かれた状況を効果的に表現している。
- エ 過去を思い出したり、現代風の会話文を用いたりして、登場人物の関係や場面を詳しく描いている。

二

次の文章を読んで、後の1〜13の問いに答えなさい（問題の都合上、本文を変えているところがあります）。

私の娘は食べることが好きで、特に果物やお菓子が大好きです。ところが、おやつ時間に娘の好きなお菓子を渡すと、母である私にも分けてくれようとするのです。この行動は、彼女が1歳の頃からみられました。最初は「まーまーまー（ママと言いたい）」と言いながら、お菓子を私の口に押し込んでくれました。そして3歳になった今では、「ママも一緒に食べよう。半分こしようね」と言い、大好きなイチゴやクッキーを分けてくれるのです。

私としては、娘に出しているおやつなので、娘に食べてほしいわけです。全部食べていいんだよ、と伝えても、娘は私にも食べてほしそうな様子をみせます。娘が嫌いなピーマンなどを押し付けるのではなく、大好きなものを共有してくれるのです。⁽¹⁾この行動を不思議に思っていたところ、非常に興味深い論文を読みました。

この研究では、1歳10ヶ月児を対象に、赤ちゃんが他者と何かを分け合うことに喜びを感じるかを調べています。実験では、赤ちゃん自身がお菓子をもらう場面、実験者が他者（おやつ好きの人形）にお菓子をあげる場面、赤ちゃん自身が他者にお菓子をあげる場面などが設定され、そのときの赤ちゃんの表情や^aタイド⁽²⁾から幸福度が測定されました。

その結果、赤ちゃんは **A** ときには、もちろん喜びの表情をみせました。⁽³⁾しかしそれ以上に、 **B** ときの方が、より大きな喜びを感じていることが示されたのです。さらに、 **C** よりも、 **D** 場合の方が、より大きな喜びを感じていることがわかりました。

つまり、2歳以下の赤ちゃんは、自分のお菓子を分け与えることに、自分がお菓子をもらう以上の喜びを感じるのです。この結果を知ったとき、私はとても感動しました。なんて素敵で心温まる研究なのでしょう!!

この研究知見を知ってからは、娘がお菓子を分けてくれるとき、遠慮せずにもらうようになりました。「ママ、どうぞ」と差し出されたお菓子を受け取ると、娘はにつこりします。自分のお菓子の取り分は減ったはずなのに、娘は「おいしいね」と嬉しそうです。赤ちゃんは自己⁽⁵⁾ 的⁽⁵⁾ と思われがちですが、他者に与えることに大きな喜びを感じているのです（ただし、娘は私にお菓子を分けた後、取り分が減ると夫（パパ）から奪おうとする場面もありますが……）。

人を助ける行為は、自分自身の喜びにもつながります。大人を対象にした研究でも、生活に必要な基本的なヨツキユウが満たされている場合、お金を自分のために使うよりも他者のために使う方が、幸福感を得られることが示されています。

「受ける喜びより、与える喜びの方が大きい」という事実は、赤ちゃんにも当てはまるのです。これは、人間が他者に与えたり助けたりすること自体を喜びとして感じる性質を持っていることを示しています。この性質が、人間の協力行動や分配行動を支える要因になつていると考えられます。

（中略）

子どもは、お手伝いが好きです。

私の娘が通う保育園では、3〜5歳児の子どもたちが一緒に過ごす縦割り保育が行われています。長女は3歳のときに引越しの都合でこの園に転園しました。転園当初は、ロッカーの位置やおもちゃの場所、給食の片付け方など、わからないことが多く戸惑っていたのですが、年上の子どもたちが自主的にいろいろと教えてくれ、お世話をしてくれました。折り紙がうまく作れないときは5歳のお姉ちゃんが教えてくれたり、お昼寝で寝つけないときは手を握ってくれたりすることもあったそうです。

お手伝いは年上の子どもが年下を助けるだけではありません。私が保育園に娘を迎えに行ったとき、同じ年の子どもが「〇ちゃんの水筒はこれで、タオルはこれです」と娘の持ち物を渡してくれるのです（互いの持ち物までよくオボえているなあと感じます）。頼

んでもいないのに帰る準備を手伝ってくれる姿に、子どもたちの優しさを感じます。

赤ちゃんも、お世話されるだけでなく、お手伝い行動を見せることがあります。次女が通う保育園の0歳児クラスでは、お外遊びの時間になると、ジャンパーの渡し合いが始まるそうです。自分が着るよりも、お友達にどうぞと渡してあげたい気持ちの方が強く、追いかけて合いになることもあるようです。

研究によると、1歳6ヶ月の赤ちゃんが、自発的に困っている大人（実験者）を手助けする様子が観察されています。E、
大人が両手にたくさん荷物を抱えながらクローゼットの扉を開けようとしていると、赤ちゃんは頼まれなくても自分から扉を開けに行くのです。他にも、大人が落としたペンを拾ったり、本を積み上げるのを手伝ったりと、赤ちゃんがさまざまな場面で他者を助ける姿が確認されています。

F、より幼い1歳2ヶ月の赤ちゃんでも他者を助ける行動が示されています。⁽⁸⁾運動能力が十分ではないため、お手伝いの範囲は限られますが、困っている人を見て自然に助けようとする姿は、「小さな助っ人」と呼びたくなるほどです。

赤ちゃんのお手伝い行動が内発的な動機から生まれていることを示す研究もあります。実験では、1歳8ヶ月の赤ちゃんが援助行動をした際に、①何も報酬を与えない、②お礼を言う、③物理的な報酬としておもちゃを与える、という3種類の反応をしました。その後、赤ちゃんの援助行動がどのくらい続くかを比較したところ、
G 赤ちゃんは、次第に援助行動が減少することがわかりました。
つまり、赤ちゃんは自分から進んで行っていたお手伝いを、おもちゃが与えられるとしなくなるのです。これは、赤ちゃんにとってお手伝いは、⁽⁹⁾自分がやりたいからしている行動であり、おもちゃというご褒美がその動機を弱めてしまうと解釈されています。お手伝いをしてくれたときには、ものを与えるのではなく、感謝の言葉を伝える方がよさそうです。

（奥村優子『赤ちゃんは世界をどう学んでいくのか ヒトに備わる驚くべき能力』による）

問1 — 線(1)「この行動」とはどのようなものか。最も適当なものを、次の中から一つ選んで記号で答えなさい。

- ア 自分が嫌いなものだけではなく好きなものも共有してくれること。
- イ 自分より先に母である筆者におやつを食べてほしそうにすること。
- ウ 自分の好きなおやつを母である筆者にも食べてもらおうとすること。
- エ 自分のおやつを取り分が減ってしまったことに気付いていないこと。

問2 — 線(2)「幸福」、(6)「協力」について、熟語の構成が同じものを、次の中から一つずつ選んで記号で答えなさい。

- (2) 幸福 — ア 永久 イ 円安 ウ 断続 エ 作文
- (6) 協力 — ア 速報 イ 広大 ウ 進退 エ 返答

問3

A

 \sim

D

 に当てはまる表現として最も適当なものを、次の中から一つずつ選んで記号で答えなさい（同じ記号は二度使えない）。

- ア 赤ちゃん自身が持っているお菓子を他者に分け与える
- イ 実験者がお菓子を他者に与える
- ウ 自分がお菓子を受け取る
- エ 他者にお菓子を与える

問4 — 線(3)「みせました」の文章中での意味と、最も近い意味で使われているものを、次の中から一つ選んで記号で答えなさい。

ア 彼女はコレクションの中から、大きい青い宝石を取ってみせました。

イ 主任はこのプロジェクトの失敗を心から謝罪し、誠意をみせました。

ウ 博士は自分で作製した機械を、私達の前に持ってきてみせました。

エ 母は子供の熱が下がらないので、病院に連れて行ってみせました。

問5 — 線(4)「娘がお菓子を分けてくれるとき、遠慮せずにもらうようになりました」とあるが、それはなぜか。その理由として、最も適当なものを次の中から一つ選んで記号で答えなさい。

ア お菓子を受け取り娘の迷惑通りにしようとしたから。

イ お菓子を分けてくれる娘の気持ちが理解できたから。

ウ 娘が母の機嫌をとろうとしているのがわかったから。

エ 娘の親切心を断るのは悪いと思うようになったから。

問6 — 線(5)「自己□□的」の□□に当てはまる言葉を、漢字二字で答えなさい。

問7 — 線(7)「縦割り保育」では子どもたちはどのような行動を見せるか。「く行動。」に続くように、文中から十三字でぬき出しなさい。

問8

E

F

に当てはまる言葉として最も適当なものを、次の中から一つずつ選んで記号で答えなさい（同じ記号は

二度使えない）。

- ア さらに イ しかし ウ たとえば エ つまり オ では

問9

——線(8)「運動能力が十分ではないため、お手伝いの範囲は限られます」とはどういうことか。それを説明した最も適当なものを、次の中から一つ選んで記号で答えなさい。

- ア お手伝いをしてできないことはあらかじめしてしまうということ。
イ お手伝いの能力と運動能力には大きなちがいがあるということ。
ウ お手伝いの代わりに自分ができることを見つけているということ。
エ お手伝いをしたくてもうまくできないことがあるということ。

問 10

G

に当てはまる表現として最も適当なものを、次の中から一つ選んで記号で答えなさい。

- ア ①の何も与えられなかった イ ②のお礼を言われた ウ ③のおもちゃを与えられた

問 11

——線(9)「自分がやりたいからしている」とほぼ同じことを述べている部分を、文章中から十四字でぬき出しなさい。

問 12

この文章に書かれている内容と一致するものを、次の中からすべて選んで、記号で答えなさい。

- ア 赤ちゃんはお菓子を大人の口に押し込んで、何としても食べてほしいという気持ちを表現する。
イ 好奇心を持って大人を助ける行動をする赤ちゃんだが、自分の分け前が減ってしまうことは絶対に許せない。
ウ お外遊びの時間にジャンパーの渡し合いが始まるのは、自分のことよりも相手のことを思いやるからである。
エ 赤ちゃんが先回りしてクローゼットの扉を開けたりペンを拾ったりするのは、大人の反応を見たいからである。
オ 3〜5歳児は大人びたところがあり、率先して年下の子供たちの持ち物を渡したりして自己満足をしている。

問 13

——線部 a 「タイド」、b 「ヨツキユウ」、c 「オボ(えて)」のカタカナを正しい漢字に直しなさい。

二

次の文章を読んで、後の1〜6の問いに答えなさい（問題の都合上、本文を変えているところがあります）。

春になると、大量にスマホに届く巣の画像。母からである。

実家の庭にある梅の木には小鳥用の巣箱が掛けてあり、毎年シジュウカラが繁殖のために使ってくれる。巣箱の天井には小型カメラが仕掛けてあって、そこからコードを引つ張って、中の様子をいつでもテレビで見られるようにしている。テレビなので見ない時は消していればいいのだが、終日「スイッチ・オン」の監視体制だ。シジュウカラの繁殖を見守ることが、鈴木家の毎年のAとなつている。

シジュウカラが巣作りを始めるのは三月下旬。それから五月上旬の巣立ちの時期まで、「巣材が入ったよ」「卵産んだよ」「ヒナがかえったよ」「ヒナが大きくなったよ」「ヒナがだいぶ大きくなったよ」などのメッセージが、写真付きで送られてくる。もちろん、僕自身も子育ての観察は大好きなので、そんな情報を仕入れてしまったら、^②いてもたってもいられない。研究という名目でちよくちよく実家に戻っていた。

庭に巣箱を最初にかけたのは何を隠そう僕である。大学四年でシジュウカラの研究を始めたのがきっかけだ。初めは「入ってくれるかわからないけど、ひよつとしたら入るかも」くらいの軽い気持ちで試してみたのだが、それから十八年以上、毎年のように入っている。多い時は一年に二回も入居する。そういう当たり年は七月半ばまで、母から巣箱の中継が続けられることになる。

そして、うれしいことに、巣立ちの成功率が異様に高い。森の中に巣箱をかけると、三〜四割は失敗に終わってしまう。卵がふ化しなかつたり、天敵に襲われたりと原因はさまざまだ。^③自然樹洞ではもつと失敗するだろう。これが普通の野鳥である。しかし、実家の

場合、これまで二十五回繁殖したが、失敗したのは二度くらい。他はすべて巣立っている。九割以上が成功だ。全世界に誇れる数値だろう。

住宅地だから天敵が少ないのでは？　と思われるかもしれないが、そういうわけではなさそうである。ハシブトガラスや野良猫などは、森よりも都会の方が圧倒的に多いし、シジュウカラのヒナを襲ったというのはよく聞く話だ。

餌がたくさんあるのでは？　と思われるかもしれない。しかしこれも違いそうさ。森に比べて住宅地では、餌資源は多くない。都会のシジュウカラは、ヒシバツタやハエの幼虫（蛆虫）、毛虫など、あまりおいしくなさそうな餌でヒナを育てる。とにかくなんでも与えるといった感じだ。一方、森のシジュウカラの場合、バツタや蛆虫をヒナにやることはまずない。かれらがヒナに与えるのは、ぷりぷりのイモムシだ。実においしそうである。

ではなぜこんなに巣立ち率が高いのか。この謎を解くヒントは親の行動にあった。親といっても鳥ではなくて、僕の親のことである。

うちの両親はとにかく過保護^④。特に動物に対しては極端だ。巣箱は僕の手作りなのだが、雨漏りがしないかどうか、必ず父のチエツクが入る。巣箱の屋根から少しでも水滴が入るものなら、隙間をガムテープでぐるぐる巻きにされてしまう^⑤。巣箱の底に空けた水抜き穴は、ほぼ意味をなさないほどだ。このおかげもあり、雨に濡れて卵がふ化しなかったトラブルはこれまで一度も起きていない。

（鈴木俊貴『僕には鳥の言葉がわかる』による）

問1 — 線①「終日〃スイッチ・オン〃の監視体制」の意味として最も適当なものを、次の中から一つ選んで記号で答えなさい。

- ア 一日中テレビをつけたままにしてシジュウカラの行動を観察しているということ。
- イ 毎日カメラを仕掛けてはシジュウカラの巣箱での様子を見守っているということ。
- ウ 一日中テレビをつけたり消したりしてシジュウカラの行動に目を光らせるということ。
- エ 毎日カメラを仕掛けることでシジュウカラに分からないように見張っているということ。

問2 Aに当てはまる言葉として最も適当なものを、次の中から一つ選んで記号で答えなさい。

- ア 歳末行事
- イ 恒例行事
- ウ 特別行事
- エ 祝賀行事

問3 — 線②「いてもたってもいられない」という言葉が正しく使われているものを、次の中から一つ選んで記号で答えなさい。

- ア 食中毒を起こして、彼は三日間いてもたってもいられない腹痛に悩まされた。
- イ 深夜まで宿題をしても、持っていくのを忘れてはいてもたってもいられない。
- ウ 母は息子の到着が待ち遠しくいてもたってもいられず、家の前で待っていた。
- エ なやみごとがすべて解消され、いてもたってもいられず明るい気持ちになった。

問4 — 線③ 「自然樹洞ではもっと失敗するだろう」とはどういうことか。その説明として最も適当なものを、次の中から一つ選んで記号で答えなさい。

ア 自然界ではひなが天敵に襲われることが多く巣立ちが難しいということ。

イ 森の木の巣穴で育ったひなが無事に飛び立つ割合はさらに低いということ。

ウ 住宅地に比べると森の中の繁殖活動はうまくいかないことが多いということ。

エ 森でふ化した野鳥でも繁殖活動の成功率は非常に低くなってしまふということ。

問5 — 線④ 「過保護」の「過」と同じ意味合いでこの漢字が使われている熟語を、次の中から一つ選んで記号で答えなさい。

ア 過去 イ 過程 ウ 過失 エ 過信

問6 — 線⑤ 「巣箱の底に空けた水抜き穴は、ほぼ意味をなさない」のはなぜか。その理由として最も適当なものを次の中から一つ選んで記号で答えなさい。

ア 巣箱の水抜きを筆者の父がしてしまふから。 イ 巣箱は手作りだが雨漏りすることは無いから。

ウ 巣箱に水が入りこむことはほとんど無いから。 エ 巣箱の底の穴もテープでふさがれてしまふから。